

あしがきのあしがき ~著者から人事担当者へのメッセージ

『感情マネジメント』

自分とチームの「気持ち」を知り最高の成果を生み出す』



2021年3月刊
発行：ダイヤモンド社
販売：1,760円

「ビジネスの現場に感情を持ち込むな!」という考え方はもう古い。最強のチームをつくりたいなら、リーダーは自分と仲間の「感情」を知ることが必須になる。自分がどんな感情を抱いているのか。そして仲間がどんな感情でいるのか。それを知り、うまく活用するだけでチームは抜群の成果を出せるようになります。

チームは「感情」でつまづく

チームビルディングやリーダーシップ、1on1など、あらゆるスキルを身につけてメンバーと向き合っても、なぜかチームの結束力が高まらず、業績も伸び悩む。果たして、リーダーに欠けているものがあるとしたら何でしょうか。実はマネジメントスキル以前の部分に問題があるケースがほとんどです。その原因は「感情」です。

リーダーがいくら理論やスキルの学びを重ねたところで、自分と

主な内容

- チームを動かすのは「感情」
- 世界で注目を集めるEQ (感情知性)
- 感情マネジメントでチームをつくる
- 感情は経営資源

メンバーの「感情」に無頓着なままでは決してうまくはいかないのです。なぜなら、人を動かす原動力は、理論やスキルではなく、「感情」だからです。

「感情」の数は2,185

カリフォルニア大学のコーウェン氏が発表した論文によると、人間が抱く「感情」の数は2,185あります。多くのリーダーはチームが目指す目的や課題、解決に向かう方法をメンバーと議論して仕事を進めていきます。ですが、リーダーが仕事の成果に上機嫌だったとしても、皆が同じ感情状態であるとは限りません。

チームビルディングでメンバーの気持ちを束ね、人の心を動かす共感性の高いマネジメントに向かうには、それぞれの「感情の違い」を認識し関わっていく必要があります。その第一歩は、リーダー自身が「自分の感情」に向き合うことです。「自分の感情」が分からないリーダーが、「他人の感情」に共感することはできません。チ



株式会社アイズプラス
代表取締役 池照 佳代

ームに影響力を与え、共感をつくる「感情」を学ぶために皆さんにご紹介するのが、Emotional Quotient=EQ (感情知性) です。

「感情」は重要な経営資源

本書では、このEQをベースとした「感情マネジメント」により、メンバー1人ひとりの「感情」と素直に向き合い、心に働きかけ、1人ひとりの力を最大化するチームビルディングの考え方や現場で具体的に活用できるワークやアクティビティを紹介しています。

人間は誰もが「感情」を持っています。「感情」のしくみを知り、自他に働きかける感情マネジメントを実践することは、自分とチームメンバーを理解できるようになり、大きな成果や成長につながります。いわば、「感情」は重要な経営資源なのです。そして朗報として、EQは後天的に磨き、高めることが可能です。組織リーダーとして、コミュニティや家族というチームに影響力を与える個人として、皆さん1人ひとりがEQを磨き続け、「感情マネジメント」の実践により周囲を共感で巻き込みながら変化をつくりだすリーダーになることを願っています。